

水田営農を主とする土地改良区の農道に対する意向

The intention of the Land Improvement District of Paddy-field Farming about Farm Road

○野田 智之*, 緒方 英彦**, 服部 九二雄**
NODA Tomoyuki*, OGATA Hidehiko** and HATTORI Kunio**

1. はじめに

農道は、農業生産活動及び農村社会生活において重要な役割を果たしているが、地域によっては路面に雑草が繁茂していたり、わだちが生じたりしている未舗装（土砂系舗装）の農道も多くあり、走行性や快適性の確保、農産物輸送時の荷痛み防止等の観点から舗装整備が求められている。一方、既に舗装整備がなされている農道においては、走行車両の荷重により生じる不陸やひび割れ等の路面の問題だけでなく、水路の泥上げ場所の確保や雑草の繁茂等に関わる路肩の問題、農道脇にある水路への転落等の通行者の安全確保の問題、一般車両との共用の問題等、様々な問題を抱えている。未舗装及び既舗装の農道とも、それぞれに問題を抱えているが、単に現状の問題を解決するだけでなく、将来に渡る農道の存在意義を踏まえた上で、その解決を図らなければならない。特に基幹的農道と圃場内農道（幹線農道、支線農道、耕作道）に大別される農道の整備は、各農道の供用環境と要求される性能を見定めた上で行うことが求められる。

本文では、農道の種類に応じた要求性能と整備手法を明らかにするための研究の一環として、農道の現状及び今後の農道整備の方向性を把握するために、区内のほぼ全ての農道がアスファルト舗装されている水田営農を主とする土地改良区に対してアンケー

ト調査を実施した結果について示す。

2. アンケート調査の概要

アンケート調査は、水田営農を主とする鳥取市内の土地改良区（受益面積：640ha、組合員数：1,450名）に対して実施した。区内の農道の総延長距離は不明であるが、区内のほぼ全ての農道がアスファルト舗装されている。アンケート用紙の記入者は、各地区の組合員を代表する総代90名であり、回収されたアンケート用紙は77件（回収率86%）である。

アンケートの内容は、①現状の農道に対する意見、②農道走行時の危険性、③今後の農道整備の方向性、である。

3. アンケート調査の結果

(1) 現状の農道に対する意見

現状の農道に対する意見としては、表-1に示すように、一般の車の通行が迷惑である、農道は舗装されている方がよい、幅員は現状のままでも概ね問題ない、路面の雑草・凸凹・ひび割れが気になる、路肩に泥上げの場所が必要であるが雑草の繁茂が気になる、夜間照明・ガードレール等の付帯設備の必要性は低い、となる。

(2) 農道走行時の危険性

農道走行時の危険性に関する意見としては、表-2

表-1 現状の農道に対する意見

質問項目	思う(%)	どちらとも いえない(%)	思わない(%)
農作業に関係のない一般の車が農道を通行するのは迷惑である	74.0	22.1	3.9
農道は舗装(アスファルトやコンクリート舗装)されている方がよい	98.7	1.3	0.0
農道の幅が狭い	41.0	26.9	32.1
農道の脇に繁茂している雑草が気になる	72.7	18.2	9.1
農道の路面に繁茂している雑草が気になる	74.0	11.0	15.1
農道の路面の凸凹(デコボコ)が気になる	78.7	5.3	16.0
農道の路面のひび割れが気になる	71.2	17.8	11.0
農道の脇に水路の泥上げの場所があるとよい	63.6	24.7	11.7
農道に夜間照明があるとよい	13.0	28.6	58.4
農道の脇にガードレールがあるとよい	10.4	31.2	58.4

*鳥取大学大学院農学研究科, Graduate School of Agriculture, Tottori University, **鳥取大学農学部, Faculty of Agriculture, Tottori University, 農道, 舗装, 修繕, 受益者負担

表－2 農道走行時の危険性

質問項目	ある(%)	ない(%)	その危険を感じたことがある(%)
農道をトラクタ等の農業用車両で走行時に脇の水路や農地に転落したことがある	29.3	50.0	20.7
農道を自家用車で走行時に脇の水路や農地に転落したことがある	32.8	34.5	32.8
農道を自転車で走行時に脇の水路や農地に転落したことがある	34.4	47.5	18.0

転落した時、その危険を感じた時間帯

朝方(薄暗い時)(%)	昼間(明るい時)(%)	夕方(薄暗い時)(%)	夜間(暗い時)(%)
6.3	25.0	56.3	12.5

表－3 今後の農道整備の方向性

質問項目	経費の程度	選択割合(%)
凹凸(デコボコ)や雑草の繁茂は気になるが土砂のままの土舗装がよい	0(安い)	1.4
毎年簡単な修繕を行う必要はあるが石を引く程度の舗装がよい	0.1	0
2～3年程度修繕が必要のない簡易舗装がよい	0.2	5.6
5年程度修繕が必要のないアスファルト舗装がよい	0.3	15.5
10年程度修繕が必要のないアスファルト舗装がよい	0.5	52.1
20年程度修繕が必要のないコンクリート舗装がよい	1(高い)	25.4

※質問条件：各工法による農道の舗装は、受益者負担2割が伴う。

表－4 今後の農道整備の方法を選択する上で考慮した条件

質問項目	特に考慮した(%)	少し考慮した(%)	考慮していない(%)
走行時の農業用車両の揺れ・振動による不快感	29.3	50.0	20.7
農産物輸送時の荷痛み	32.8	34.5	32.8
負担する経費の額	34.4	47.5	18.0
修繕が必要のない期間の長さ	45.6	38.6	15.8
周辺景観との調和	13.8	44.8	41.4

に示すように、水路や農地に転落したことがある、その危険を感じたことがあるが約50%あり、その時間帯が夕方である回答が56%と最も多いが、昼間の回答も25%ある。このように農道走行時の危険性の実態がある一方で、表－1に示すように夜間照明やガードレールは必要ないという意見が多くあることから、農道と農地間の容易な移動を確保しつつ、路面高及び路肩と農地・水路間の傾斜の適切な整備が、利用者の安全を確保する上で必要になることがわかる。

(3) 今後の農道整備の方向性

今後の農道整備の方向性に関する意見としては、表－3に示すように、一般の農道舗装と見なされる10年程度修繕が必要のないアスファルト舗装を選択する回答が52%と最も多いが、20年程度のコンクリート舗装を選択する回答も25%ある。一方、整備経費が安価であったとしても、修繕の頻度が高まる舗装を望む声は少ない。整備手法を選択する上で考慮した条件に関する意見としては、表－4に示すように、修繕が必要のない期間の長さの回答が最も多く、次

に負担する経費の額、荷痛み、走行時の不快感の順である。これらの回答からは、受益者負担の額が重要な選択条件になることが認められる一方で、それ以上に修繕の有無及び頻度が農道整備にとって重要になることがわかり、受益者負担が多くなったとしても、現状以上の性能が今後の農道に求められていることが示唆される。

5. おわりに

農道に要求される性能と整備手法は、農道の種類、現状の舗装の工種、交通量及び通行車両の種類、営農形態などに応じつつ、受益者及び国民が各立場で納得するものでなければならない。本文で示した農道の現状及び今後の農道整備の方向性に関するアンケート調査の結果は、あくまでも区内のほぼ全ての農道がアスファルト舗装されている水田営農を主とする土地改良区に対してのものである。現状の農道の多くが未舗装(土砂系舗装)である地域、畑作営農を主とする地域では、異なる結果が得られる可能性があることに留意する必要がある。